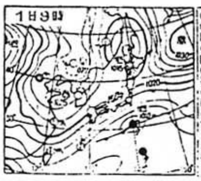
讀賣新聞
THE YOMIURI SHIMBUN
EVENING EDITION（日刊）　第31601号

10月1日　木曜日
昭和39年（1964年）

明治25年3月8日第3種郵便物認可
発行所
読売新聞社
東京都中央区銀座西3/1
電話(大代表)東京567局1111

© 読売新聞社　1964年



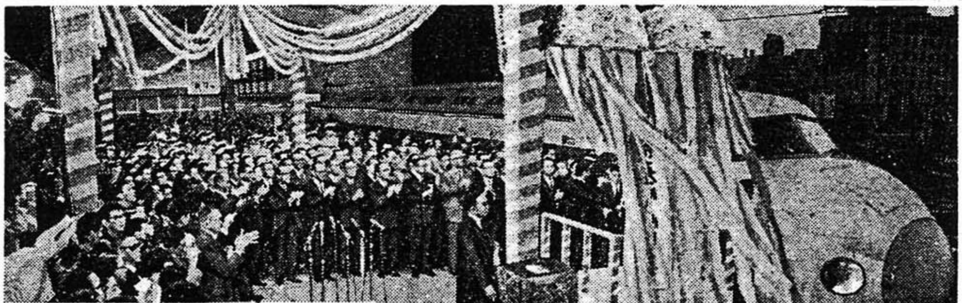
[illegible]晴れのち曇り。

気圧の谷が通過したので、きょうからあす前半にかけては、良い天気だが、満州方面の高気圧が、北にかたよって通る見込みなので、あす後半は、関東地方までは曇りの多い天気になりそうだ。

新幹線けさから開業

限りなき期待と、希望に満ちた東海道新幹線広軌五百十五㌔は、一日午前六時、東京、新大阪両駅から超特急「ひかり一号」「ひかり二号」が発車して、正式に営業を開始した。これを記念して、午前十時十分から国鉄本社に天皇、皇后両陛下をおむかえして開業式が行なわれたが、新幹線の誕生は、着工以来五年五か月、弾丸列車の構想がたてられてから約四半世紀に当たる二十六年目。東京―大阪を結ぶ日本の大動脈として、いま新しい鉄道時代の幕が開かれた。

新時代の幕開く
朝モヤ破る「ひかり一号」



新幹線スタート　㊤多くの関係者らの拍手に見送られてけさ東京駅をすべり出す「ひかり一号」　㊦開業式でおことばを読まれる天皇陛下

この日は、東京、新大阪駅で午前五時四十五分から、名古屋駅で同六時十五分、静岡駅では同六時五十分から、それぞれ始発列車のスタートを祝う行事が、各新幹線ホームで行なわれた。

東京駅では、まだ明けやらぬ新幹線専用の八重洲口寄り十九番ホームの西側、大阪寄りに来賓の東都知事をはじめ石田総裁、磯崎副総裁、藤井技師長、加藤新幹線支社長ら国鉄側幹部約六十人が参集、まず都知事から左藤大阪府知事、中馬大阪市長にあてたメッセージが朗読され「ひかり一号」の井上清（四〇）藤崎利雄（三九）両車掌（大阪車掌所）に託された。

続いて石田総裁に、千代田区永田町小六年木川和代さん（都健康局長児）が、大橋東京駅長と晴れの初列車の山本幸二（三七）上月正司（三七）両運転士（大阪運転所）井上、藤崎両車掌にも、それぞれ小学生のお嬢さんたちから花束が贈られた。すでにこの出発式の前に、十九番線にはいっている「ひかり一号」は、アイボリーホワイトとブルーのツートンカラーに塗りわけられた車体を輝かしながら、軽くエンジンを始動させている。旅客もつぎつぎと乗り込んで、初列車の興奮が次第に高まる。そんな中で石田総裁の乗務員への激励。「しっかりやってください」と言葉は短いが、新幹線建設の労苦が結晶したように力強かった。

十二両編成の先頭車の前に張られた紅白のテープの位置に総裁が進むと、五時五十九分、発車ベルがホームいっぱいに鳴り響く。同五十九秒、テープに金のハサミが入れられ、クス玉が割れて、五十羽のハトが飛い上がる。礼砲になぞらえた二十一発の花火も打ち上げられ、三十五人の東鉄吹奏楽団が演奏する「鉄道唱歌のうた」のメロディーが、この〝新しい鉄道の日〟の出発を盛りあげる。

定刻六時、拍手とバンザイと歓声のどよめきのなかを「ウォーン」という特徴のある警笛を鳴らして、秋の訪い朝モヤを破るよ[illegible]間のスタートを切った。三十分後に下り特急「こだま二〇一号」、一時間後に同超特急「ひかり三号」…と、超特急、特急三十本がつぎつぎと発車していった。

いっぽう同じ午前六時に新大阪駅をたち、同七時五十六分一秒、岐阜羽島駅付近で「ひかり一号」とすれ違って定刻の同十時、東京に着いた「ひかり二号」には都知事あて大阪府知事、同市長のメッセージが託されており、いまさらのように新幹線のスピードぶりと、狭くなった日本に目を見張らせた。

このあと、午後二時半から東京・虎ノ門のホテル・オークラで開業記念祝賀のパーティーが、内外の知名人約三千人を招待して行なわれた。

石田総裁談話　新幹線の開業は、各方面の協力と支援のたまものだが、とりわけこの建設計画者であり、推進者の十河前総裁の功績である。新幹線は、近い将来に東京―大阪間三時間運転ができるようになり、今後の産業発展におよぼす効果は大きい。今後の計画としては、岡山、広島、北九州へ新幹線を延ばし、東北方面への延長も当然考える時期がくるだろう。いっぽう輸送力増強の第三次長期計画もやりとげねばならず、政府、国会、国民のみなさんの支援をお願いしたい」

両陛下を迎えて式典

新幹線開業式典は、初列車の出発式に引き続き、天皇、皇后両陛下をおむかえして、同日午前十時十分から、国鉄九階大講堂で行なわれた。両陛下がおそろいで国鉄関係の行事においでになるのは、こんどがはじめてで、船田衆院、重宗参院両議長、松浦運輸相はじめ政財界知名士、十河前国鉄総裁、島・元技師長ら新幹線にゆかりの深い人たち、国鉄側石田総裁、磯崎副総裁ら約三百人が参列。

石田総裁が「鉄道が今後とも国運の進展に役立ちますよう、一層の努力を傾けます」と式辞を述べ、〝天皇陛下から、新幹線の開業を祝うおことばがあった。これにこたえて石田総裁が奉答し、ついで来賓の祝辞があり同三十分、式典は終わった。

天皇陛下のおことば

日本国有鉄道の東海道新幹線が幾多の困難にうちかって、見事に完成し、本日、その開業式を迎えるに至ったことは、私の深く多とするところであります。

わが国の鉄道は、近年著しい発展をとげ、国民生活の向上と産業、経済の発展に多大の貢献をしてきましたが、関係者は、今後さらに力を合わせ、輸送力の充実と安全の確保に努め、その使命を達成するよう希望します。